



2月幼稚園だより

令和8年2月2日
千代田区立番町幼稚園
園長 美越 英宣



つなげ つながり つないでいく

副園長 荒木 久子



(番町幼稚園 HP)

新しい年が始まり、気付けば一か月が過ぎました。明日は節分です。門の脇の梅が早くもかわいらしい花を咲かせ、季節は春を迎えようとしています。3学期の幼稚園は、次の学年へ、そして4月から始まる令和8年度へと、子どもたちの思いと経験を“つないでいく”大切な時期です。

3歳児もも組 — 小さな背中が語る「確かな成長」

チャレンジのスタートは、3歳児もも組の子どもたちでした。登園時、2学期までは門で園長、副園長と挨拶をしたのち、親子で手を繋ぎ前庭を通り、保育室前まで共に行っていた道のりでした。1月からは保護者の方と一緒に行くのは前庭の入り口までです。挑戦する日は、子ども自身が「やってみよう」と思えた日です。だからこそ、日によっては保育室前まで一緒に行きたい日もあります。夏みかんの木の前で手を振り、意を決したように、しかし、意気揚々とした足取りでリュックを背負って歩き出す小さな背中。その背中を見つめる保護者の方のまなざしが、何とも言えない1月の風物詩です。4月の頃の不安げな表情を思い返すと、子どもたちの成長がどれほど確かなものか、改めて感じさせられます。進級し、後輩を迎えるさくら組へ向かう足取りが、もう始まっているのです。

4歳児さくら組・5歳児うめ組 — 思いを受け継ぐ「引き継ぎの時間」

さくら組とうめ組では、3学期ならではの“引き継ぎ”が進んでいます。誕生会の司会もその一つです。これまで司会を務めてきたうめ組が、さくら組に司会の仕方を伝え、1・2月は合同で、3月には合同を卒業し、うめ組が見守る中、さくら組だけで司会を行う予定です。5、6人のグループに分かれて行う引き継ぎでは、教えるうめ組の姿も方法も様々です。

- ・「右足左足と、ぴったり息をそろえて台に上るよ」と、張り切って教えようと熱血教官さながらの姿
- ・「やってみるから見ていてね」と実演し、身をもって教えようとする姿

・恥ずかしさや戸惑いから時にふざけてしまい、伝わらないことに気付いて自ら態度や伝え方を改める姿

しかし、伝えようとしていること、つなげようとしていることは同じです。大人が教えたとおりに動くのではなく、相手の姿から気持ちを感じ、自分なりの方法で試行錯誤しながら伝えていく——。その経験こそが、大きな価値となり、子どもたちの未来につながる力になってほしいと願いながら、見守る教職員が向き合っているのは、子どもたちの今と未来です。



地域とのつながり — 「世界が広がる1月」

「つながり」と言いますと、園内だけでなく、たくさんの人とのつながりもあった1月でした。冬季預かり保育では、六番町町会会長をはじめ地域の方にご来園いただき、正月遊びを教えていただいたり一緒に楽しんだりしました。

また、近隣保育園の5歳児、小学校5年生との交流も行いました。この交流をきっかけに、小学校の休み時間に独楽やけん玉を教えに来てくれる自主交流も始まり、5年生の姿が憧れや目標となり、今、剣玉ブームと投げ独楽チャレンジが熱いうめ組です。

さらに、うめ組は豚汁パーティーに向けて、近くの肉屋さん、豆腐屋さん、スーパーまで買い物に行き、一人ずつ商品を渡し、お金を支払い、レシートを受け取るやりとりをさせていただきました。



人とのつながり、経験のつながり、そして心と心のつながり……。そのひとつひとつが、子どもたちの世界を広げ、他を慈しみ、成長を喜び、希望に満ち溢れ、春の新たな出発へと向かっていくことを願ってやみません。

春の新たな出発へ向かうこの三か月が、子どもたちにとって豊かで、あたたかな時間となることを願っています。